

2019年3月7日

JBA 審判担当

2019 オフィシャルズ・マニュアル ポイント説明資料

p 3 ターミロジー

審判をするうえでお互いにコミュニケーションをとるための用語。各自がそれぞれのターミロジーの意味を把握・理解しミーティングなどを行うことが重要

p 12 IOT

主に5つの項目が出されているが、マニュアル内にはこの5つを基盤とした多くの技術が含まれている。まずはこの5つの項目を正しく理解し実践につなげる中で、またそれにつながる技術へ進んでいってほしい、2 PO・3 PO 通じての基本的な技術。

p 15 四原則から IOT への移り変わり

今までの四原則がなくなったわけではなく、より実践やその言葉の意味に合わせて形を変えてきている。また IOT としても今後進化していくことで項目が増えていく可能性も大いにあることを共有。

p 20 映像を活用した振り返り

映像では判定の成否をただ見て過ごすのではなく、その正しかった判定もしくは次に修正したいケースにどうメカニクスの視点や、その他プレゼンテーションの改善などを具体的に調べていくかが重要である。また「撮影した映像の権利の所在」については十分に注意し、SNS やその他拡散ツールで使用することは自分自身や組織に大きなリスクとなることを必ず指導していただきたい。

p 21 シグナル

プレゼンテーションの大きなひとつである、テーブルプレゼンテーションは今後も各自が鏡などをつかって練習したり、より各都道府県を代表する審判としての意識を高めたプレゼンを披露してほしい。また声を使うこと、シグナルの高さなど、意識をもって練習し実践することで、コート上でのパフォーマンスが見られている意識を高めていってほしい。

p 42 ショットクロック

オフェンスにテクニカルファウルが宣せられた場合などで、ショットクロックが継続になるケースでは一度ショットクロックを消す必要はないため、TO 関連としても共有事項となる。

p 42 マジックタイム

時計を確認した時点でゲームクロックとショットクロックから、次にバイオレーションがおきるタイミングなどを把握する技術。特に IRS がいない環境で時計の管理をする場合に重要な役割を果たすことになるため、各都道府県、早い段階からこの技術を習慣化していくことで、ゲーム中のトラブルの予防につなげてほしい。

【2PO】

p 51 両審判の責任と協力

3PO でも同様の課題にチャレンジしていくが、2 PO においても「誰が見るべきで、いつチェックイン・チェックアウトしているのか」をできる限り意識していきたい。一方で、3 PO に比べて2 PO はひとりひとりがカバーすべき項目が増えるため、3 PO ほどメカニズムにそってプライマリの把握ができない部分はどうしても生じてしまう。

また、現在すすめている項目の中で、クルーチーフ・メンタリティがあるが、コートの上ではクルーチーフもアンパイアも区別はなく、お互いが協力してはじめてレフェリングが機能することをすすめてほしい。経験や年齢だけで決まることは少なく、誰もがお互いをリスペクトし、称賛し、また疑問を一緒に解決していく環境と雰囲気を作っていくしてほしい。

p 58 トレイル

ショットに対してのレフェリングは3 PO・2 PO どちらでも大きなチャレンジであり、特にトレイルのレベルに関して意識する。2 PO ではほかの位置にボールがある場合も含めてトレイルの可動区域が増えるが、まずはアングルをとるために「アウトサイドイン」や「ロートレイル」の理解をもって対応してほしい。

p 59 トレイル（ボールはエリア4）

リードが見えない部分をトレイルが把握する。これは場面によっては3 PO でいうセンターの役割であったり、他の場面によってはトレイルとしてのアングルになる場面もあるかと思うが、重要な部分として「リードがレフェリーしているプレーの裏側や、リードが見ていない部分に飛び込んでくるプレーなどを把握しレフェリーする」ことである。

p 61 リード（ボールはエリア6）

同様に、トレイルが見えない部分を把握しレフェリングする協力。

p 62～64 フロアバランスが右側に集中している場合（リードが右側に行くケース）

- ・原則リードは右側にいけるタイミングでは移動することを推奨するが、右側に3ペアいたらすべてのケースで移動するわけではなく、右側に移動する「理由（アクティブなマッチアップなどが）」は何かを把握しておくことが重要
- ・アクティブなポストアップなどがあれば右側に移動する。
- ・右に移動する際は「テンポよく歩いて移動」、トレイルはポジションを少しあげるなどアジャスト
- ・リードは右から左に戻る場合、必要に応じて「走っても良い」
- ・ショットクロックが5秒未満の場合は右側に移動しない
- ・右側に移動しようとするタイミングでリングに向かうドライブやショットが起きた時には移動を中断する

p 67 OOBの協力

- ・基本的にまず「プライマリが判断」することを怠らない
- ・そのうえでヘルプをするオフィシャルは「100%の確信」をもってヘルプを行う
- ・OOBの訂正の頻度が多ければ多いほど、ゲーム中の判定の信憑性が落ちてしまうリスクを把握して、それでも訂正が必要な場面かどうかを判断し、必要であればヘルプを行う

p 75 スローイン（残り 2 分でのプリベンティブシグナル）

ここではルールの確認となるが、残り 2 分でのスローインではシグナルをだすことでルールの徹底を図る。

p 93 テクニカルファウルが宣せられた場合

ここでもルールの確認として「テクニカルでは FT1 本、挟み込みで行う」ことを確認。

テクニカルを宣する際、笛を吹く前に必ず「ボールステータス（ボールの状態）」を確認する。

【3PO】

p 105 フロアカバレッジ

- ・プライマリには「エリア」と「アングル」があることを改めて確認
- ・プライマリエリアとアングルをもっている審判が 1 番手となる

p 110 ウィークサイドでのトラップ

図のように、センターサイド、特にセンターラインに近い部分でトラップやプレッシャーなどがある場合、センターはそのボールのマッチアップを無視することはできない。

センターとしてポジションをアジャストし、プレーをカバーするが、同時にリードとしてはセンターが躊躇なくボールをカバーできるようにローテーションのタイミングをプッシュすることを確認。もしくはリードがローテーションできなかった場合はセンターはボールの展開に合わせてポジションをリカバーできるようにすることが重要。

p 114 スティール・ターンオーバーの対応

マニュアル内にある図をイメージとし、スティールが起きたときに、センターとトレイル、どちらがビジーなのかを把握しそれに近いほうのオフィシャルはボールを無視できないため、他の二人がそれに合わせて次のポジションをアジャストすることを確認。センターとトレイルの絶妙なコンビネーションが重要となる。

p 124 スコアもしくはノースコアの判定

残り 5 秒未満で、バックコートから新たなコントロールが始まった場合は、センターがプライマリとしてスコアの成否を判定する。

p 131 チームファウルのカウントとコミュニケーション

チームファウル 3 つでボーナスシグナル、4 つでも同様にネクストボーナスと意思を共有。

これはボーナスシグナルを出すことが目的ではなく、「チームファウルを把握していること」、そして、「フリースローボーナスであることを把握し、シューターを見間違えない」ことに目的があることを共有。